

A区分・C区分共通  
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

別添	なし
----	----

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽
----	------	----	--------

応募区分(応募する区分を選択してください。)

応募区分	A区分
------	-----

複数応募の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、応募企画数から除く

複数応募の有無	無	応募総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

文化芸術団体の概要

ふりがな 制作団体名	しゃかいふくしほうじんとつとききん		団体ウェブサイトURL
	社会福祉法人トット基金		<a href="http://www.totto.or.jp">http://www.totto.or.jp</a>
代表者職・氏名	理事長 黒柳徹子		
制作団体所在地	〒 141-0033	最寄り駅(バス停)	JR大崎駅
	東京都品川区西品川2-2-16		
電話番号	03-3779-0233		
ふりがな 公演団体名	にほんろうしゃげきだん		団体ウェブサイトURL
	日本ろう者劇団		<a href="http://www.totto.or.jp/02/index.html">http://www.totto.or.jp/02/index.html</a>
代表者職・氏名	江副悟史		
公演団体所在地	〒 141-0033	最寄り駅(バス停)	JR大崎駅
	東京都品川区西品川2-2-16		
制作団体 設立年月	昭和55年 4月		
制作団体組織	役員	団体構成員及び加入条件等	
	理事長: 黒柳徹子 理事8名 評議員10名 監事2名	劇団員: 22名 劇団代表: 江副悟史 顧問: 井崎哲也 加入の条件: ろう者または手話のできる18歳以上の男女	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者を置く	本事業担当者名	金田弘明
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	小池紀子
本応募にかかる連絡先 (メールアドレス)	info@kyougen.mail-box.ne.jp		

<p><b>制作団体沿革・ 主な受賞歴</b></p>	<p>1980年 ろう者による「東京ろう演劇サークル」を発足。  1981年 黒柳徹子より「窓ぎわのトットちゃん」の著作権を受領し、社会福祉法人トット基金が設立。  1982年 トット基金の付帯劇団となり「日本ろう者劇団」と改称  1983年 イタリアで開催された「世界ろう者会議」で手話狂言を初披露  1987年 新しいジャンルの演劇を作ったとして文化庁芸術祭賞を受賞(手話狂言)  2000年 創作視覚演劇「カスパー」において主演の池田大輔が芸術祭新人賞を受賞  2002年 内閣総理大臣表彰受章  2004年 「ギリシャにおける日本文化年2004」に参加し、アテネで「手話狂言」の公演  2015年 ローマ、パリにて国際手話で手話狂言の公演を行う。(文化庁国際芸術交流支援事業)  2019年 首相官邸で手話狂言を披露(安倍総理と障害者との集い)  2020年 国立能楽堂主催公演として「手話狂言」を上演  2020年～2021年 さどの島銀河芸術祭参加「手話狂言」を上演  2021年 東京オリパラ2020『インクルーシブNIPPON Shinagawa発2020能・狂言特別公演』  2021年 第35～36回国民文化祭・第20～21回全国障害者芸術祭参加(宮崎県・和歌山県)  2021年 三宅右近氏と日本ろう者劇団 第31回催花賞 受賞  2024年 パリ日本文化会館共催公演 手話狂言「瓜盗人」「鶏聳」</p>					
<p><b>学校等における 公演実績</b></p>	<p>1988年度 品川区三ツ木小学校公演体育館(PTA主催)  同年度 品川区立大崎中学校体育館 演目「二人袴」「しびり」  2005年度 田園調布雙葉中学校講堂 演目「附子」「梟山伏」  2008年度 同上  2009年度 長野県小諸市芦原中学校体育館 演目「梟山伏」「附子」  2011年度 田園調布雙葉中学校講堂 演目「梟山伏」「附子」  2014年度 同上  2017年度 同上  2021年度 田園調布雙葉中学校講堂 演目「附子」と手話狂言ワークショップ  同年度 三ツ木小学校体育館 演目「附子」と手話ワークショップ  2024年度 立命館大学 手話狂言ワークショップ</p>					
<p><b>特別支援学校等における 公演実績</b></p>	<p>2008年度 県立高知ろう学校 手話狂言「附子」  2017年度 中央ろう学校、坂戸ろう学園、大宮ろう学園、明晴学園  2018年度 旭川ろう学校、中央ろう学校、横浜市立ろう特別支援学校、大宮ろう学園、明晴学園  2019年度 中央ろう学校、葛飾ろう学校、横浜市立ろう特別支援学校、大宮ろう学園、明晴学園  2020年度 中央ろう学校 ワークショップ7回(12月～2月)、 茨城県立水戸ろう学校 手話狂言「梟山伏」  2023年度 中央ろう学校 手話狂言「六地藏」「附子」</p>					
<p><b>参考資料の有無</b></p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>				
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p><a href="https://youtu.be/kHEQZAPZbvs">https://youtu.be/kHEQZAPZbvs</a></p>				
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="938 1865 1011 1904">ID:</td> <td data-bbox="1011 1865 1444 1904"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="938 1904 1011 1942">PW:</td> <td data-bbox="1011 1904 1444 1942"></td> </tr> </table>	ID:		PW:	
ID:						
PW:						

別添	なし			
公演・ワークショップの内容		【公演団体名 日本ろう者劇団】		
対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	○
企画名	楽しく手話を学ぼう 手話狂言「附子」			
企画のねらい	日本ろう者劇団の俳優による「手話の演技」に、和泉流狂言師の「声の演技」が加った、両者の共同作業で作上げられる古くて新しい手話狂言【附子】を楽しく笑って鑑賞しながら、伝統芸能の魅力を学ぶとともに、聞こえない人、聞こえる人の壁を超えた、コミュニケーション能力の向上をめざします。			
演目概要・演目選択理由	<p>◆出演：太郎冠者、次郎冠者、主人 ろう者の俳優による手話の演技に、狂言師が声を当てることによって、聞こえる人も聞こえない人も同じように楽しめる、「手話狂言」の代表作の一つです。したたかに、たくましく生きる中世の人物像が笑いとともに描かれます。(参考:別添1)</p> <p>「一休さんのとんち話」の原型であり、小学校の国語の教科書にも採用されていた演目です。 登場人物の生き生きとした対話、扇であおぎながら附子に近づく大胆なしぐさ、おいしそうに砂糖を食べる表情、掛け軸や天目茶碗を壊す時の擬音(効果音)の面白さに、生徒たちは何もない能舞台の上で繰り広げられる出来事に、大いに想像力を膨らませます。そして「附子」を食べてしまった二人の機智に富んだ言い訳に、思わず声をあげて笑ってしまうことでしょう。平易な話し言葉で演じられる狂言の魅力がいっぱいにつまった作品です。(参考:別添2)</p>			
児童・生徒の参加又は体験の形態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前のワークショップで習った手話がどのように手話狂言の中で用いられたのか、みなさんに尋ねていきます。</li> <li>・狂言の代表的なセリフ「このあたりのものでござる」というセリフを全員で手話で演じてもらいます。</li> <li>・さらに理解を進め、全体が二手にわかれて、手話狂言の台詞の掛け合いを演じてもらいます。</li> <li>・狂言や手話についてのいろいろな疑問について出演者が丁寧にこたえてゆきます。</li> </ul>			
児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人数目安	10～500名	
		鑑賞人数目安	10～500名	
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>◆<b>第一部 手話狂言「附子」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お話: 狂言の歴史や見方、「附子」のあらすじなどを、狂言師が実演を交えながら、わかりやすくお話しします。(20分)</li> <li>・手話狂言「附子」の上演: ろう者劇団の俳優による手話の演技に、狂言師が影から声でセリフをあてて、聞こえる人も聞こえない人も同じように楽しく鑑賞していただきます。(20分)</li> </ul> <p>～休憩(15分)～</p> <p>◆<b>第二部 手話狂言ワークショップ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップ: 狂言の所作・台詞、手話狂言の演技を鑑賞者全員で体験します。(25分)</li> <li>・Q&amp;Aコーナー: 生徒からの質問に出演者が答えます。(10分)</li> </ul> <p>演出: 三宅右近/構成・監修・振付: 三宅近成</p> <p style="text-align: right;">公演時間 90 分</p>			
出演者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本ろう者劇団(内4名) 江副悟史、五十嵐由美子、小泉文子、砂田アトム、数見陽子、鈴まみ、長谷川翔平、五日市十夢</li> <li>・手話通訳(内1名) 田家佳子、井本麻衣子、小松智美、長谷川さとみ</li> <li>・狂言方(和泉流)(内5名) 三宅右近、三宅右矩、三宅近成、金田弘明、小飯塚光生(参考:別添3)</li> </ul>			
演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	<p><b>江副悟史(えぞえさとし)</b>: 日本ろう者劇団代表。テレビ出演のほか、東京オリンピック・パラリンピック関連イベントにも携わり、手話狂言を披露。映画やドラマなどの出演、手話指導・監修にも携わるほか、年間50本ほどの講演もこなし、全国各地で活動の場を広げている。</p> <p><b>三宅近成(みやけちかなり)</b>: 能楽師狂言方(和泉流)。祖父は人間国宝・九世三宅藤九郎。父、重要無形文化財保持者・三宅右近に師事。狂言方としての活動の他に、オペラ、現代劇にも出演。手話狂言には自ら手話を用いて日本ろう者劇団の指導にあたり、2016年より行われている「手話能」では間狂言として出演。社会福祉法人トット基金理事役員。</p> <p><b>長谷川さとみ(はせがわさとみ)</b>: 手話通訳士。社会人向け専門学校上級コース(手話通訳者養成講座)講師などを経て、現在、様々な手話通訳の現場に立ち、翻訳活動などを続けている。ろう者の両親の元に生まれ、家族の友人知人など手話とろうの世界に囲まれて育った。</p>			
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 10 名 スタッフ: 4 名 合計: 14 名	運搬	積載量: 2 t 車長: 4.7 m 台数: 1 台	

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み		無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み		上演	内休憩	撤去	退出
	9:00	9:00～12:00		13:30～15:00	10分	15:30	17時00分
	※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。						

本公演 実施可能日数目安  ※実施可能時期については、採択決定後に確認 します。(大幅な変更は認め られません)	6月	7月	8月	9月
	20日	20日	20日	20日
	10月	11月	12月	1月
	20日	20日	20日	20日
※平日の実施可能日数目安をご記載ください。			計	160日

公演に係るビジュアルイメージ  
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。



体育館フロア上に能舞台を設置した場合です。

正面から見る他にも、脇正面(能舞台横から)、中正面(能舞台斜め方面から)と、舞台を取り囲むようにして手話狂言をご覧ください。

鑑賞する生徒と近い目線で演じるため、演者と観客との一体感を味わえることでしょう。

舞台設営スペース：  
体育館端より幅12m×奥行き9mです。

※ステージ上に楽屋を設けます。また、体育館縦向きでの設置が基本となりますが、体育館の形態、観客数によって、横向きの設営も可能です。

体育館ステージ上に能舞台を設営した場合です。

観客数が500人以上といった大人数に対応し、広くご鑑賞いただけます。

ステージの規模に応じて能舞台を設営しますので、特に広さの規定は設けません。

※楽屋はステージ左側の体育館フロア上に設けます。(3m×6m)  
ステージ袖にしかるべきスペースがある場合はそちらを楽屋にいたします。

著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用权等の許諾手続きの要否	該当あり	該当コンテンツ名	手話狂言「附子」
	該当事項がある場合	権利者名	日本ろう者劇団	許諾確認状況

別添	あり
----	----

【公演団体名 日本ろう者劇団 】

ワークショップのねらい	<p>近くて遠い「ろう者」の存在。 日本ろう者劇団の講師との交流から、ろう者の現状について正しく理解します。 また、健常者が当たり前に行っている音声言語以外にも、さまざまな伝達方法があるということ、ゲーム感覚で楽しく考えながら実践してもらいます。</p> <p>聞こえない人、聞こえる人に関わらず、積極的なコミュニケーションを図る感性を育むことをねらいとします。</p>		
-------------	---	--	--

児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	10～500人(全校)
--------------	---------	--------	-------------

	<p>標準:90分(45～60分に短縮も可能です)</p> <p><b>①「ろう者」を知ろう！(20分)</b> ろう者は全国に何人いる？</p>  <p>全国にいる「ろう者」の数は100万人。他の障害と比べて外見ではわかりづらい「ろう者」が、実は皆にとっても身近な存在であることを知ってもらいます。</p> <p><b>②「ろう者とのコミュニケーション方法」を知ろう！(15分)</b> ろう者が財布を落としました。さてこれをどう伝える？</p>  <p>実際に何人かの生徒によって、耳の聞こえないろう者に何かを伝える方法を実際に試してもらいます。正解は一つではありません。みんなで考えてみましょう。</p>		
--	--	--	--

ワークショップ  
実施形態及び内容

**【休憩】ろう者と交流を持ってみよう！（10分）**

好奇心で構いません。どんどん講師とコミュニケーションをとってみてください。



**③ジェスチャーゲーム(20分)**

例えばスイカというお題。これを言葉を使わずに、隣の人に当ててもらおう。



コミュニケーションを取る方法は、言葉だけではありません。普段当たり前のように使っている音声言語を用いずに、身振り手振りだけで表現して、人にものを伝えてもらいます。

**④「手話」を知ろう！（20分）**

自分の年齢を手話で表現してみよう。

1～10までの数字や、美味しい、不味い等、ごく初歩的な手話を学び、少しずつ文章に組み立てて、発表してみます。手話狂言「附子」の中でも出てくる手話も学びます。本公演で探してみましよう。

**⑥さいごに(5分)**

「ありがとう」の手話を学び、皆んなで「ありがとうございました」と手話で挨拶して終了となります。

その他ワークショップに  
関する特記事項等



事前ワークショップでは、特に舞台を設けず、子供たちとの境界をなくし、ホワイトボード(学校所有を拝借いたします)を用いて、手話のさまざまな表現、コミュニケーションのあり方を説明していきます。

手話通訳を介して、時には生徒に質問したり、逆に質問されたりなどしながら、全体とのコミュニケーションを豊かに図りながら進行していきます。

別添	なし
本事業への応募理由	【公演団体名 日本ろう者劇団 】
<p>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</p>	<p><b>①本事業に対する取り組み姿勢</b></p> <p><b>・概要</b> まず、ろう者と狂言師の共同作業にて演じる手話狂言の鑑賞を通して、<b>伝統芸能への深い理解をもとめます。</b> また、ろう者との交流から、音声言語による当たり前の意思伝達方法を根本から見つめ直し、今後の多様性社会に即して適応できる<b>コミュニケーション能力の向上を目指す</b>ことが本事業の目的と捉え、実施してまいります。</p> <p><b>・ろう者に親しむ</b> 事前ワークショップでは、障がいを持つということで普段はなかなか交流の機会がないろう者の講師が、<b>同じフロアで生徒の目線に立ち</b>、手話通訳を介して、その現状を正しく理解してもらいます。 例えば財布を落とした耳の聞こえないろう者にどうしたら気づいてもらえるか、代表数名に前に出てもらい、実際にその場面に即したつもりで、<b>その交流のあり方を模索し、考えて行動してもらいます。</b> また言葉に頼らず、身振り手振りで人にモノを伝える試みを、<b>生徒全員がゲーム感覚で楽しんで行うことにより</b> コミュニケーションのあり方を一人一人が根底から見つめ直し、個々の表現力を高めることに繋げてまいります。</p> <p><b>・手話狂言に親しむ</b> 本公演で演じられるのは、およそ40年前に設立された日本ろう者劇団の代表的なレパトリーであり、プロの狂言師とプロのろう者の俳優の二人三脚によって演じられる手話狂言です。 日本古来の伝統芸能であり、世界文化遺産にも登録されている狂言は、子供から大人まで楽しむことができる「笑い」の芸能です。決して難しくない、むしろ肩の力を抜いて楽しんで観てもらえるものだとして理解してもらえるように、体育館には<b>客席から手の届くような近距離に本物さながらの能舞台を設置</b>、鑑賞者の年齢に即した<b>わかりやすい解説</b>を交えて、生徒にとって我が国固有の伝統芸能鑑賞の第一歩目となるよう目指してまいります。 生徒にはその鑑賞だけでなく、どのような工夫によりこの芸能がなりたっているかを理解するために、<b>全員で手話狂言の一場面を演じてもらいます。</b> 狂言の古来の型に加え、セリフの緩急、抑揚をどのように手話で表現するかを、身をもって体験してもらうことによって、<b>手話と狂言の高度な融合の形を理解してもらいます。</b> 古くて新しい芸能「手話狂言」の鑑賞と体験から、皆さんに生まれた多くの疑問にろう者劇団の俳優や狂言師が、<b>時間の許す限り質問に丁寧に答えていきます。</b>また事前ワークショップでも、休憩中や終演後にろう者の講師との交流の場を設けます。</p> <p><b>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・採択校決定後、直ちに学校側とヒヤリングを行い、鑑賞人数や会場の規模に応じて、ワークショップのあり方や、能舞台設置における段取りなどをご相談させていただきます。</li> <li>・ヒヤリング後に、事前ワークショップから舞台設営、公演当日までのタイムテーブルを各校ごとに作成し、注意事項等も含めたPDFファイルにて送信いたします。</li> <li>・舞台設営は学校公演を専門とする業者に委託しておりますので、音響、照明、楽屋設営等、全て当方にて行い、学校側の負担はごく軽微です。</li> <li>・事前のワークショップではろう者劇団の俳優、手話通訳に狂言師が同行します。その際に、本公演におけるどんな細かい疑問や要望でも相談していただければと存じます。当団体は、小学校、中学校、高校の学校公演のほか、特別支援学校の公演経験が豊富にありますので、さまざまなご要望にお応えできます。</li> </ul>

# 手話狂言とは



## 能楽について

わが国の代表的な伝統芸能である能と狂言は、およそ700年前の室町時代初期に成立したもので、両者は合せて「能楽」（のうがく）という名称で呼ばれています。近年、能楽は、舞台芸術として国内外で高い評価を得ており、2001年にはユネスコの世界無形遺産の一つに選ばれています。

## 狂言について

狂言は「笑い」の劇、喜劇です。能とは対照的に中世庶民社会の日常や、民間説話を素材として、普遍的な人間像を描き出しています。洗練された骨太の芸は、和やかな楽しい笑いをもたらしてくれます。



## 手話狂言

狂言のセリフは室町時代から江戸時代までの古いことばです。昔から継承された狂言特有の動き、運びをそのままに、手話表現の研究を重ね、古典芸能にふさわしい手話狂言を作ることにつとめました。

狂言方と泉流・重要無形文化財保持者、三宅右近氏の指導のもと、手話のセリフと声のタイミング、間の取り方にも工夫を重ね、古典芸能の強靭さと、手話の豊かな表現力をあわせもつ、手話狂言が誕生しました。

狂言の台詞を、手話と声の両方で、表情豊かに表現しますので、聞こえる人も聞こえない人も同じように楽しむことができます。

別添 ※別添は1企画につき3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先

No.2

【公演団体名

日本ろう者劇団

】

ぶ す  
手話狂言 附子



『附子』を前に二人は興味津々。  
なんとか手桶の中を見てみよう、  
毒気に当たらないように  
扇であおぎながら『附子』に寄り、  
手桶の蓋を開けました。

ご主人さまから留守番を言いつけられた  
太郎冠者と次郎冠者。  
主人は手桶を持ち出し、「この中には、  
その毒気にあたってもしんでしまうほどの  
猛毒『附子』が入っているから、  
気をつけて番をするように」と言いつけます。



中に入っていたのは何と砂糖。  
当時砂糖は大変な高級品なので、  
主人は二人に食べられないように、  
中身が「附子」だと嘘をついていたのです。  
砂糖とわかってしまうと、  
たちまち二人は平らげてしまいました。



砂糖を食べてしまった言い訳をしようと、  
二人はご主人の大切にしていた  
掛け軸やお茶碗などのお宝をこわして、  
嘘泣きをします。  
いったい二人はご主人に、  
どんな言い訳をするのでしょうか？



演者は能舞台という何もない空間の上で、附子や掛け軸、天目茶碗など、そこにはないものをあたかも存在するように演技をします。そこには室町以来の伝統を受け継ぐ、厳しい稽古によって培われた型を要します。  
手話狂言を実際に鑑賞してみると、古来からの研ぎすまされた型の演技に加えた、手話表現の多彩な魅力に気づかされます。手話の知識がなくても、観ているうちにだんだんと感覚的に理解できるようになってくる体験をぜひ味わってください。  
わかりやすい言葉と、たのしい動きのある手話狂言「附子」は、手話を理解する入門編としても最適な演目です。

演目概要・演目選択理由

別添 ※別添は1企画につき3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先	No.2	【公演団体名	日本ろう者劇団 】
出演者	<b>社会福祉法人トット基金 理事長 黒柳徹子よりご挨拶</b>		
	 <p>日本ろう者劇団のレパトリーの中で、最も力を入れているのが手話狂言です。なにかも手探りの「世界ろう者演劇祭典」(1983年)に参加したイタリアのパレルモが、はるか昔のこのように思えます。あれから、演目も少しづつ増え、日本各地、世界各国のお客様に喜んでいただいています。「狂言って、こんなに面白いって知らなかった！」見終わった後、こうおっしゃるお客様がたくさんいらっしゃるのも嬉しいことです。とにかく楽しんでいただけることは絶対です。ぜひ、ご覧いただき</p>		
	～ 主な出演者・講師紹介 ～		
	<b>日本ろう者劇団代表・江副悟史（えぞえさとし）</b>  <p>両親・兄とともにろう者の家庭で育つ。2008年、社会福祉法人トット基金(理事長:黒柳徹子)付帯劇団「日本ろう者劇団」入団以降、視覚演劇公演および手話狂言公演に多数出演。2017年より当該団体代表に就任。東京オリンピック・パラリンピック関連イベントにも携わり、手話狂言を披露。演者としては勿論、劇団代表として様々な分野でのろう演劇普及に尽力、現在に至る。その他経歴として、2009年NHK「こども手話ウィークリー」にて最年少キャスターとして抜擢。その後NHK「ハートネット」「ろうを生きる難聴を生きる」「手話で楽しむみんなのテレビ」など福祉番組に多数出演。映画やドラマなどの出演、手話指導・監修にも携わる。NHKBS「しずかちゃんとパパ」では主演・笑福亭鶴瓶氏への手話指導を行い、「第48回放送文化基金賞」にて同番組が優秀賞を受賞、笑福亭鶴瓶氏も演技賞を受賞した。俳優・手話指導のほか、年間50本ほどの講演もこなし、全国各地で活動の場を広げている。</p>		
	<b>日本ろう者劇団・砂田アトム（すなだあトム）</b>  <p>県立松山ろう学校小学部の時から演劇に興味を持ち舞台に立つ。1999年「カスパー」以降、「永遠の一夜」、「ある砂の家族」、「翼のない天使」に客演。2002年手話狂言「鐘の音」初舞台とともに入団。2003年～2010年各自公演に出演。劇団外でも映画、舞台、テレビ、ビデオで活躍している。現代劇・時代劇・コメディなどジャンルは幅広く、舞台監督や舞台美術もこなし、イラスト個展も開催。2013年仏クランドイユ演劇祭招待作品「アトムのひとり芝居」は世界各国からの参加者で大盛況、国際的にも活動の幅を広げている。</p>		
<b>日本ろう者劇団・鈴まみ（すずまみ）</b>  <p>1996年入団。同年アトリエ公演「デブ・パラダイス」でデビュー。手話狂言、創作劇に多数出演。2003年～2005年制作も担当。外部出演では1998年イスマシオ「乗合馬車のキップ」、2000年みずノ卵公演vol3「コクトーの遺言」、2002年風の市プロデュース・シアターX提携公演「雨月」、2002年演劇企画室千里魚眼「アルトの黙示録」他、2010年劇団しゅわえもん「ブンナよ、木からおいてこい」、2011年「あらしのよるに」、2017年うごく作品VOL.1、2019年VOL.10、2019年濃淡公演VOL.01に参画。2020年全日本ろうあ連盟創立70周年記念映画に出演。座・高円寺劇場創造</p>			
<b>狂言方和泉流・三宅近成（みやけちかなり）</b>  <p>能楽師狂言方和泉流。祖父は人間国宝・世三宅藤九郎。父、重要無形文化財保持者・三宅右近に師事。3歳で「柑子伎」にて初舞台に出演して以来、2004年「三番叟」、2007年「釣狐」、2012年「金岡」、2015年「花子」といった秘曲、大曲を披く。能楽堂の能会その他、全国の会館での一般公演、小中高校生対象とした芸術鑑賞教室などに多数出演。狂言方としての活動の他にも、オペラ、現代劇にも出演する傍ら、落語や紙切りなどの演芸やミュージカルとのコラボレーション企画もプロデュースしている。手話狂言には自ら手話を用いて日本ろう者劇団の指導にあたる一方で、2014年の手話狂言公演「初春の会」の「髭櫓」でシテを勤めた。2016年より行われている「手話能」では、能の出演者が手話と同時にセリフを言う全国でも初めての試みが行われ、以降、全公演に間狂言として出演、高い評価を得る。公益社団法人能楽協会会員及び東京支部常任理事。社会福祉法人トット基金理事役員。</p>			